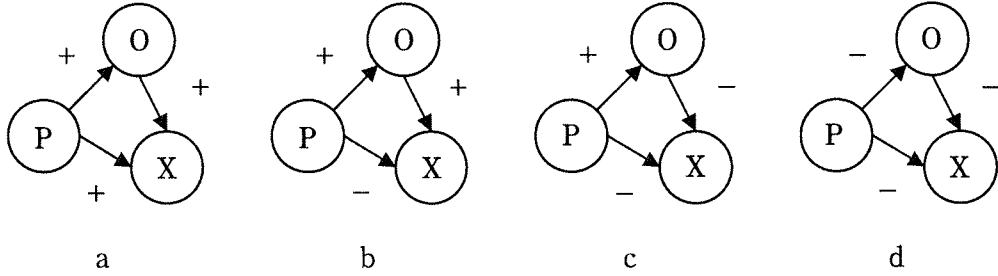


次の記述のうち記憶におけるスキーマの働きに関する事例として妥当なのはどれか。

1. Aさんに1週間前の夕食に何を食べたか尋ねたところ、全く思い出せなかったが、10年前の誕生日に恋人と何を食べたかを尋ねたところ、正確に思い出せた。
2. Bさんはバニラ味のアイスクリームを食べて食中毒になったことがあり、それ以来、バニラ味のアイスクリームを見ると嫌悪感を覚える。
3. Cさんは小学校の時に暴力を受けたことがある。高校生になった現在、その前後のことは思い出せるが、暴力を受けた時の状況のことはよく思い出せない。
4. ある地方の先住民族であるDさんに、別の地方に伝わる昔話を聞かせ、一定期間の後に再生させたところ、Dさんの地方に伝わる昔話に似た話として再生した。
5. 学生であるEさんが心理学の期末試験を受験したところ、学期の初期と終期に教わった内容の得点が高く、中間の内容の得点が低かった。

正 答 : 4

ハイダー (Heider, F.) は、人の対象に対する態度は、本人と対象及びその対象に関連する別の人物の 3 者の心情関係に依存するとした。図 a ~ d は本人を P, 対象を X, 対象に関連する別の人物を O とし、好意的な感情を +, 非好意的な感情を - として、3 者関係を図式化したものである。これらのうちには 3 者関係が均衡状態にあるものが二つあるが、それらはどれか。



1. a, b
2. a, c
3. a, d
4. b, c
5. c, d

正答: 2

有意味受容学習に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 学習すべき知識や概念を教師が教えるのではなく、学習者に自分の力で発見させようとするものである。
2. クラス全体を 6 人程度の小集団に分け、短時間の話し合いをさせ、小集団ごとの結果を全体で共有するものである。
3. 一斉授業において、形成的評価を指導の途中に複数回行い、その結果に応じた個別指導をおりませることにより、ほぼ全ての子どもに目標を達成させようとするものである。
4. 系統だった内容をスモールステップの原則に基づいて配置し、学習者自身が学習を進め、反応の正誤を確認できるようにすることで学習目標を達成させようとするものである。
5. 一斉指導において、先行オーガナイザーと呼ばれる事前情報を提示し、学習者が各自の認知構造に関連付けながら理解・知識の定着ができるようにするものである。

正 答 : 5